

【研究名】：眼科病棟における術後内服抗菌剤と持参薬の相互作用に関する調査

【目的】

クリニカルパスとは特定の疾患の治療や検査について、主に入院中に受ける医療サービスを標準化し経時的に記載した計画表です。クリニカルパスは多様な患者さんに対して適応できる必要があるため、使用する薬剤は患者さん毎に調節する必要がなく、他の薬との相互作用が少ないものが望ましいと考えられます。当院眼科病棟においても、手術時にはクリニカルパスが用いられており、術後に感染予防目的でセフジニルを内服することになっています。しかし、セフジニルは鉄、アルミニウム、マグネシウム含有製剤と同時服用することで、吸収が低下することが報告されています。一方、眼科に入院される患者さんは入院前から様々な薬を服用していることが多く、その中にはセフジニルと相互作用を起こす薬が含まれることもしばしばあります。当院では薬剤師が入院時に持参薬を確認しており、これらの薬剤が持参された場合は服用時間をずらしたり、セフジニルを他の抗菌剤に変更するといった処方提案を適宜行っていますが、緊急入院のときや医師が不在のときなど、必ずしも全ての患者について対応できていないのが現状です。そこで本研究では、セフジニルの服用が予定されている患者さんのうち、鉄、アルミニウム、マグネシウム含有製剤を持参した患者さんの処方歴を調査し、セフジニルとの同時服用を回避し適切に使用されているかについて現状調査を行います。また、セフジニルの代替薬を検討するため、患者さんの年齢、性別、身長、体重、クレアチニン値を調査します。

【研究意義】

鉄、アルミニウム、マグネシウムを含む薬を服用中の患者さんの背景と、セフジニルが適切に使用されているか調査することで、クリニカルパスの問題点を抽出し改善につながることを期待されます。

【研究内容】

眼科に入院してセフジニルの投与が予定されている患者さんを対象に、持参薬に鉄、アルミニウム、マグネシウムのいずれかを含む薬を持参したか、持参した場合はセフジニルと同時服用したかについて調査します。また、患者さん年齢、性別、身長、体重、クレアチニン値を調査します。

【研究期間】

2013年10月～2014年9月の1年間を予定しています。

【患者さんの個人情報の管理について】

厚生労働省「疫学研究に関する倫理指針」に基づいて患者さんのプライバシーを守るよう努めています。結果の発表や出版に際しては個人が特定できるような情報は掲載しませんので、患者さんの不利益となることはありません。

【研究実施体制】

愛媛大学医学部附属病院 薬剤部

教授 荒木 博陽
講師 田中 亮裕
薬剤師 田中 守
薬剤師 井門 敬子
薬剤師 渡邊 真一
薬剤師 矢野 春奈

【研究成果】

眼科クリニカルパスの術後内服抗菌剤と持参薬との相互作用を調査し、相互作用のない抗菌剤への変更を提案したことで、医薬品適正使用に貢献し、薬剤師の業務軽減にも繋がりました。研究成果は日本病院薬剤師会雑誌 50 : 1457 -1460 (2014) に掲載されました。